出雲
北陵月報

No. 450
令和５年２月28日
出雲北陵中学高等学校
土江明文社　印刷

心の羅針盤

学年主任　黒崎　勉

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。思い起こせば皆さんが入学してくる年の１月、新型コロナウイルスが発生しました。そのため入学式の日からマスクを着用しての学校生活が始まり、この３年間しっかりと皆さんの顔を見て話をする機会は、ほとんどありませんでした。色々な制限のある学校生活ではありましたが、皆さんは勉強に、部活動に、生徒会活動にと様々な場面で真摯に向き合い頑張りました。そして何よりも素直で思いやりの気持ちを持った生徒が多い学年であったように思います。

これから先、どのような状況になるのか分かりませんが、自分の決めた夢や目標に向かって突き進んでください。しかし、その過程には様々な困難が待ち受けていることでしょう。イギリスの作家ジェームズ・アレンは「強く思うことは実現する」という言葉を残しています。心の底から必ず実現したいと強く思い行動したことは、何かしらの形で現実のものとなっていくという意味だと思います。

昨年の10月２日「本当にこんなことが起こるのだろうか」ということが起こりました。

プロ野球パ・リーグのペナントレースは最終戦までもつれていました。首位のソフトバンクはロッテに引き分け以上で優勝、２位のオリックスは楽天に勝つことが絶対で、尚且つソフトバンクが敗れなければ優勝はありません。その確率は非常に低いもののオリックスナインは自分達ができうる精一杯のプレーをし、５対２の逆転で楽天に勝利します。するとソフトバンクがまさかの逆転負けを喫し、オリックスが130試合目の最終戦で逆転優勝を飾りました。試合後のインタビューでオリックスの中嶋監督は「あきらめている選手は一人もいませんし、最後まで絶対に勝つという気持ちを持っていましたので、必ず逆転してくれると思っていました」と語っています。私はこの試合をテレビで観戦し、本当にこんなことが起こるのかと身震いし、何事においても最後まで諦めてはいけない、と強く思いました。今日でお別れですが、皆さんの「強く思う気持ち」が叶うようこれからも心の中で応援し続けたいと思います。最後に私の好きな歌詞を贈ります。

瞳に映るものが
君の全てじゃなくて
見えない未来にも
輝く世界があって
信じて進めばいい
時々休んでても
君を責めたりしないから
ずっと胸に溜まった息を吐いて
心の羅針盤の指す先へ
羅針盤の指す場所へ

今を生きろ

三年一組担任　金森　快

主人公の高校教師（浅海暁生）が生徒を前にして、黒板に殴り書きした言葉です。高校生の時に夢中になったドラマのワンシーンですが、今でもはっきりと思い出すことができます。「そうだ！大事なのは今に集中することなんだ！」目の前の霧が晴れたような気持ちになりました。気持ちをコントロールすること、自分を表現することができず、悩み多き年齢でした。

さて、卒業生の皆さんが進む新しいステージは、選択の連続です。目の前の選択が正解か、間違いか、今は分かりませんし、それはさほど重要ではないと思います。大事なのは自信を持って選べるかです。自信を持って堂々と我が道を進むこと。それが今を生きることなんだと思います。

皆さんの活躍を心から祈っています。

卒業おめでとう

三年二組担任　篠原　勝利

３年生の皆さん卒業おめでとうございます。この３年間は皆さんにとってどのような年月だったでしょうか。入学して早々の休校、各種行事・大会の中止や延期。その後もコロナ禍の影響で、皆さんにとって辛く厳しい道のりであり、我慢の３年間であったように思います。この経験が皆さんの人生において、必ずやプラスになると信じています。自分を大切に、人を大切に、これからの人生を歩んでください。皆さんの今後のご活躍を期待します。

制限から学ぶ

三年三組担任　畑　宗一郎

出雲北陵での３年間はどうでしたか？満足して終われましたか？それとも後悔の方が多いですか？私は３組のみんなを見ながら、制限をかけることの恐ろしさを実感した２年間でした。自由って言葉は聞こえはとても良いですが、「責任は自分で」という非情さを併せ持っています。これから社会に出て行く皆さんに待ち受けているのは、高校生活で謳歌しきれなかった、「たくさんの選択肢がある自由」です。たくさんの良いことも、失敗もあることでしょう。その全てを受け入れて、これからを謳歌してください。出雲北陵で過ごした時間と仲間が、皆さんのこれからの挑戦を後押ししてくれることを願っています。皆さんが出雲北陵をもっともっと誇りに思えるように、私も挑戦し続けたいと思います。

３組のみんな！卒業おめでとう！

人生の宝物

三年四組担任　岡　由美子

皆さんの人生における貴重な２年間を、担任としてともに過ごすことができました。その幸せは何ものにもかえがたい、私の人生の宝物です。

２年前、始業式のＨＲで「北陵一のクラスをめざそう！」を目標に掲げました。その結果をどう考えますか？

皆さんは実際に体育祭優勝・学園祭総合優勝を果たしてしまいました。その原動力はチームワークだと私は思っています。また、定期試験では常に激しい争いが見られる一方で、解っている人がまだ解らない人に熱心に教えているのが教室のいつもの光景でした。日直や係りの仕事は友だちの分も手伝い、掃除の分担も声を掛け合ってやっていましたね。そして進路決定に向けての頑張りもすごかった。一人ひとりが自分の将来を見据えて精一杯取り組む中で、驚くほどの成長を見せてくれました。優勝がなかったとしても、３年４組は私にとって「ナンバー１」です！

卒業おめでとう。

自信を持って新しい世界に飛び込んでいってください。一生懸命さと謙虚さを持って進めば道は開けます。応援しています！

可能性は無限大

三年五組担任　鈴木　雄介

卒業おめでとうございます。

高校3年間はどうでしたか？色々な思いがあると思いますが、心から満足している人はいないと思います。まだやれることがあった、やりたかったことがあったと思っていると思います。そう思っているあなた達は本当に素晴らしいです。目標があったとしても、高校生活の中で新たな目標を見つけ、それを達成し、更に高い目標の達成に努力する。そんな夢のような成長を近くで見ることは私の生きがいであり、幸せでした。本当に有難うございました。

一人ひとりがかけがえのない大切な存在です。良い所も悪い所も全部自分です。これからもうまくいかないことはたくさんあります。それでも頑張るから成功が嬉しい。皆さんはその真実を知っています。可能性は無限大。あなた達はまだまだ成長します。それが楽しみで仕方ありません。これからも自分の心を大切に、自分らしく、楽しみながら突き進んでください。いつでも、どんな時でも応援しています。無限大の未来を楽しんでください。

アウェイ・ゲームを乗り越えて

三年六組担任　妹尾　一希

新しい挑戦はいつでも、アウェイな場所から始まるものです。県内外から出雲北陵高校に進学したこともそうですが、最初は見ず知らずの場所であったり、クラスに同じ中学校の友だちがいなかったりと、とても心細かったかもしれません。しかし3年の月日が経ち、今はどうですか？周りを見渡せばきっと、気を許せる友だちがいることでしょう。

4月から始まる新生活（挑戦の場）は、まだホーム（安心できる場所）ではありません。どのような環境の中でも、自分を信じて、周囲を巻き込み、自分自身が持っている最高の力を発揮できるように、アウェイをホームに変えていきましょう。進学先や就職先で、その場所に居ることがゴールではありません。常に変化を望み、前に進み続けてください。応援しています。卒業おめでとう。

中・高卓球部

天皇杯・皇后杯2023年全日本卓球選手権大会（一般・ジュニアの部）

時　1月23～29日
於　東京体育館

〈ジュニア男子シングルス〉
ベスト16　小野泰和（1-5北陵）
4回戦敗退　佐藤卓斗（2-4北陵）
〈一般男子シングルス〉
1回戦敗退　小野泰和
〈ダブルス〉
3回戦敗退　杉浦大和（3-2北陵）・佐藤卓斗　組

○大会総評

上位進出はならなかったが、ジュニアの部（U－17）で小野泰和が1年生ながら5回戦まで進出し、今後の活躍に期待を抱かせる内容であった。全国トップレベルの選手と比べると、技術の正確性や安定性、戦術の幅が足りない。今大会で明確になった課題を今後の練習で克服していきたい。

（顧問　古瀬泰之）

サッカー部

島根県高校サッカー新人大会

時　2月3・4日
於　大社高校グランド
　　出雲高校グランド

1回戦　本校　6［4－0　2－0］0　情報科学
2回戦　本校　0［0－2　0－1］3　松江商業

○大会総評

初戦の相手は情報科学高校で、日頃の練習の成果を発揮し大勝を収めることができた。

2回戦の松江商業高校は県リーグ1部の強豪で、序盤から攻め込まれた。DF陣の素晴らしいプレーで耐えたが、一瞬の緩みからの失点で集中力が切れ、失点を重ねてしまった。後半は攻める回数を増やせたが得点を奪えず無念の敗退となったものの、今後の成長につながる良い経験となった。多くの方々のご声援をいただき、有難うございました。

（顧問　鈴木雄介）

吹奏楽部

第46回全日本アンサンブルコンテスト中国大会

時　2月5日
於　出雲市民会館

本校からはサクソフォン4重奏が出場した。生徒達は最後まで努力し、美しい音色で素晴らしい演奏を披露することができ、観客から大きな拍手をいただいた。結果は銀賞となり、全国大会出場は叶わなかった。

この貴重な経験を糧に、更にレベルの高い演奏を目指し、日々精進していきたい。

・サクソフォン4重奏　銀賞
レシテーション・ブック／D.マスランカ

（副顧問　竹内康貴）

ウインターコンサート

時　2月18日
於　出雲市民会館

第16回目となる「ウインターコンサート」を開催した。本公演は、吹奏楽部の1年を締めくくるコンサートであり、3年生にとっては最後のステージとなる。12月に予定していたが、コロナウイルス感染拡大のために延期となり、生徒と保護者会が一丸となって、演奏会の成功を目指し練習と準備を重ねて本番に臨んだ。

1部の吹奏楽ステージは、吹奏楽コンクールやマーチングコンテストで演奏した曲目を中心に構成した。2部では、県音楽コンクールで上位を獲得した3年生のソロ演奏を行った。島根県を代表するに相応しい立派なステージであった。3部は「美女と野獣」をテーマにステージドリルを行った。部員のみならず、保護者の皆さんのご協力でスペクタクルなショーとなった。

部員達は万感の思いを込めた演奏を披露し、素晴らしいコンサートとなった。当日は1,500名を超えるお客様にご来場いただき、盛会裏に終えることができた。

多方面にわたる皆様のご支援に感謝し、これからも地域に愛されるバンドを目指し、変わらず精進していきたい。

（顧問　原田　実）

合唱部

松江プラバ室内合唱コンクール金賞に輝く

時　2月5日
於　島根県民会館中ホール

2月5日、島根県民会館で行われた第34回松江プラバ室内合唱コンクールに参加した。1・2年生の新体制での初めてのコンクールで、生徒達も緊張した面持ちであった。男子部員が3名ということもあり、練習段階からバランスをとったり、ハーモニーを決めたりすることに随分苦慮した。コンクール本番では、練習の成果をしっかり発揮し、堂々と演奏を終えることができた。結果は、高等学校部門を通しての金賞1位並びに山陰中央新報社賞を受賞することができ、生徒達の自信につながった。さらに、日々の緻密な練習を重ね、演奏の質の向上を図りたい。

（顧問　布野浩志）

男子バスケットボール部

中国高校新人バスケットボール大会第3位入賞

時　2月10～12日
於　カミアリーナ

1回戦　本校　87－66　広（広島県代表）
準々決勝　本校　90－50　鳥取東（鳥取県代表）
準決勝　本校　61－85　豊浦（山口県代表）

○大会総評

今シーズン初めての中国大会が出雲市にて開催された。初戦は広高校と、準々決勝は鳥取東高校と対戦し、粘り強さに苦戦を強いられたが危なげなく最終日に駒を進めた。

準決勝は豊浦高校と対戦した。序盤から相手のペースで苦しめられたが、最終ピリオド終盤まで5点リードしていたが競り勝つことはできなかった。最後まで両チームの気迫がぶつかり合い接戦を繰り広げたが、勝負どころでミスを連発し惜敗となった。

結果は優勝まであと一歩届かなかったが、最終日まで島根県代表として戦い抜き、中国地区の強豪相手に本校のバスケットができたことが素晴らしい経験となった。中国制覇に向けて更に精度が高まるよう精進していきたい。

（顧問　手島幹人）

企業見学会

2月17日、2年生の就職希望者40名が県内の企業4社を訪問させていただいた。各企業の担当者の方の説明を聞き、その後職場を見学させていただいたが、貴重な情報を見聞することができた。

コロナ禍の中、見学を引き受けていただいた企業の皆様、出雲地区雇用推進協議会の皆様には大変お世話になりました。厚くお礼申しあげます。

卒業直前講座

時 2月13・20日
於 本校黎明ホール

卒業を前に3年生が卒業直前講座を受講した。

13日には本校の卒業生で、卒業生会会長でもある森脇俊樹税理士をお迎えして租税教室を開催した。スライドではクイズ形式のものを取り入れ、生徒が興味を持って理解できるよう工夫されながらお話していただいた。また島根県消費者センターの錦織教子先生には消費者と事業者の契約トラブルについて、成人年齢引き下げで何が起こるのか、注意しなければならないことは何か、実例を交えながらお話いただいた。またSNSに関するトラブルの対処法についても詳しく説明いただいた。

20日には「源氏蛍の会」代表の三浦成人先生に「生きる」ということと題してご講演をいただいた。ご自身の体験をもとに話された内容は生徒の心を強く打つものであった。するかしないかは自分自身の心が決める、これから新しい社会へと旅立つ皆さんが、折に触れ先生の言葉を思い出して、見て見ぬふりをせず正しいと思う方へ進んでいってもらいたい。

高校2年生スキー研修

時 2月14～15日
於 だいせんホワイトリゾート

キャリア教育関西研修旅行の中止を受け、2年生は校外特別活動として大山スキー研修を開催することとなった。自然の雄大さを感じながら、スキー技術を習得するとともに、集団行動の中での協調性や責任感を培うねらいもある。

当日は天候にも恵まれ、生徒は積極的な姿勢でスキーに取り組むことができた。初めてスキーを体験する生徒が多かったが、斜面を滑り降りる姿が印象的で、中には中級者コースに行く班もあった。またスキーの上達はもちろん、集団行動の大切さを学ぶこともでき、実りのある研修となった。

美術・CGデザインコース 第22回 卒業制作展

時 2月11・12日
於 出雲文化伝承館

本年度も卒業制作展が出雲文化伝承館で行われた。美術・CGデザインコースと特別進学コース美術専攻の生徒が、3年間の集大成として作品を展示した。天候にも恵まれ、昨年を大幅に上回る233人の来場者をお迎えし、賑やかに開催することができた。本年は「I」をテーマに、それぞれの個性を生かしながら制作、運営・広報に1年間準備してきた。会場には個性あふれる力作が並び、高校生らしい爽やかな展覧会となった。

今後はそれぞれの進路に進むが、この3年間を糧に、努力を続けてくれることを期待している。開催にあたり、ご支援いただいた皆様に厚くお礼申しあげます。

（コース主任　飯塚康弘）

会場の様子

音楽コース 第30回 卒業演奏会

時 2月11日
於 ビッグハート出雲 白のホール

音楽コース30期生5名による卒業演奏会を開催した。生徒達はそれぞれ各専攻教官の指導の下で積み上げた力を発揮し、3年間の集大成となる見事な演奏を披露した。

ここに至るまで様々な形でご支援、ご声援を賜りました保護者の皆様をはじめ、各専攻教官の皆様、地域の皆様、ご来場いただきました皆様、関係者の皆様に心から感謝申しあげます。（コース主任　原田　実）

写真部

TopEye フォトコンテスト 2022
高梨優汰が「入選」受賞！

ニコンイメージングジャパンが主催する「TopEye フォトコンテスト2022」において、高梨優汰（3-3此）の作品「幻想」が応募総数1500点を越える中から、全国3位入賞にあたる「入選」に選ばれた。これは本人が3年間誠実に写真に取り組んできた成果であると同時に、ご支援いただいた方々のお蔭であり、心より感謝している（入賞作品は「今月の1枚」に掲載）。（顧問　村上　学）

中学校

卓球部

第52回後藤杯卓球選手権大会（名古屋オープン）カデットの部

時 1月21・22日
於 岡崎市中央総合公園総合体育館

〈男子シングルス〉
ベスト32　金丸　陽（中2西山）
決勝トーナメント一回戦敗退
三好蒼空（中2岩倉）
予選リーグ敗退
波多間怜偉（中1王龍）

○大会総評
現在の実力を知る、有意義な大会となった。課題を克服し、少しずつ力をつけていきたい。

第16回中国中学校選抜卓球大会

時 2月4日
於 山陽小野田市民体育館

〈男子団体〉
3位

○大会総評
新チームの実力を知る大会となった。結果を真摯に受け止め、今後の練習に励んでいきたい。

（顧問　相場翔太）

男子バスケットボール部

第31回出雲市中学生招待バスケットボール大会

時 2月5日
於 平田中学校体育館

1回戦　本校　65－29　出雲一
敗者戦　本校　64－38　出雲三
決勝戦　本校　39－95　出雲二
2位

○大会総評
決勝戦では、選手の怪我で思うような試合ができなかった。この大会の結果を反省し、市総体に向けて練習に励みます。ご声援有難うございました。

（顧問　多々納厚比古）

第3回 合同道徳

時 2月20日
於 北陵ホール他
講師 手銭修司中学教頭

2月20日7限に、手銭修司教頭による合同道徳が行われた。今年は、「お金と時間はどちらが大事か」をテーマにディベートを用いて皆で考えた。

ルールとして、立論、反対尋問、反駁（はんばく）、最終弁論の説明を聞き、「お金派」、「時間派」に別れて討論を行った。初めての人がほとんどだったので不慣れな点もあったが、自分の意見を他人に伝える、他人の意見を聞き、その意見に対して質問や意見を言うというディベートの基礎を学んだ。

論理的思考力、瞬時に判断する力、自身からの発信力などをつけるのに効果的であることが分かった。

中学2年生スキー研修

時 2月3日
於 琴引スキー場

今年度のスキー研修は、中学2年生全員参加で実施することができた。研修では、自然の壮大さ、雪山の魅力を肌で感じながら、スキーの難しさと楽しさを思う存分に味わった。コロナ禍では、子供達が実際に体験をする機会を奪われがちであるが、今回のスキー研修では普段の学校生活では得られない大きな収穫があったと思う。この体験を今後の学校生活に生かしていきたい。

出雲科学館 理科学習（中学1年）

時 2月3日
於 出雲科学館

出雲科学館において、「火を噴く大地」について学習した。

1時間目はサイエンスホールでの実験を鑑賞し、2・3時間目はグループごとに実験室で三瓶山の火山灰の観察を行ったり、偏光板装置付光学顕微鏡を用いて岩石の組織の観察を行った。この実験を通して生徒達は興味深く学習に取り組み、地元の岩石について理解を深めることができた。

偏光板装置付顕微鏡を用いて観察

作品と研究

「礼法を学んで」

次の感想文は、高校一年生が毎週1時間、行っている「礼法」の授業からのものです。担当の先生の講話を聞いたり、様々な実習を通して作法を身につけたりしました。

石田　蒼太（1-1道 宍）

僕は礼法を学んだことで親の偉大さを再確認しました。制服をたたむことを学ぶ授業では、たたみ方に少し手間取りました。手本通りにたたんでも、なかなかきれいな形でたためないのです。少しのズレでも服がゆがんでしまいましたが、なんとか形になりました。その日家に帰って、母親が服を次々にたたんでいるのを見て膝から崩れ落ちました。母からは変な目で見られましたが、母の手伝いをすることにしました。もう一度洗濯物を見たら、僕のたたんだものと母のたたんだものとの違いがすぐにわかりました。それくらい自分のたたみ方は拙いものでした。母はこれを毎日しているのかと思うと自然に、「いつもありがとう」と感謝の言葉が出てきました。その日から親の手伝いをすることが増えました。今は僕の帰宅の時間が遅いので、風呂掃除などをしています。母はいつも食事の準備から洗濯物など家事全てのことをしてくれて頭が上がりません。礼法を学び、家で実践してみたことから、よりたくさんの親孝行をしたいと思うようになりました。

礼法の時間は、僕にあたり前の事を再確認させてくれる時間、そして感謝をするということをたびたび思い出させてくれる時間です。これからも支えてくれる周りの人達がいることをあたり前だと思わず生活して行きたいと思います。礼法を通じて大切な事を学べて良かったです。

高橋菜桜子（1-5陽 向）

私は礼法を学び、中学の時と比べると見違えるほどに成長ができたと思います。その中でも今まであたり前のことをしっかりとすることができなかった私にとって、すれ違う先生方に大きな声であいさつできるようになったことが一番の成長だと思います。あいさつの習慣から得られたものは、先生方とより近い関係を築けたことや、あいさつが返ってくるたびに心地よい気分を感じることができたことです。それからは近所の人にも自然なあいさつができるようになりました。また、家では礼法で学んだ服のたたみ方を活用したり、手伝いを積極的にしたりするようになりました。心に余裕が生まれ、人に優しく接することもできると毎日が以前よりも楽しく思えます。最近、特に大切だなと思うことは、どんなに小さなことでも何かをしてもらったときに、その人の目を見て「ありがとう」と言うということです。私の友人がそれをあたり前にしているのを見たり、されたりするたびに素敵だなと思うからです。「ありがとう」という言葉を別の方向を向いて告げる人や、心のこもっていないように言う人もいます。小さなことでも心をこめてお礼を言えるのは簡単ではないと思います。これからの生活の中で、ささいな事にも気づきお礼ができるような自律した高校生になりたいと思います。

田中　広人（1-6三 出）

これまで学んだ礼法を通して、僕が特に気をつけるようになったことは、「姿勢」と「服のたたみ方」です。姿勢については、つい崩れてしまうときが多々ありましたが、足をそろえたり、机にもたれかかったりしないように意識するようになりました。授業の始めの黙想は、式典で座るようなイメージで、けじめをつけようと心がけています。また、起立、着席の際の足の運び方も学ぶことができ、社会に出たときにとても役立つと感じました。服のたたみ方の実習では、たたんだ時にコンパクトになればいいと思っていました。しかし、きれいにたためると、たたみ方一つでその人の性格や印象も見えてくることがわかりました。

礼法で学んだことは将来役立つことばかりと思いますが、日々意識して行い、自然にできるようになるまで頑張りたいです。

川本あさひ（1-7西 斐）

礼法を本格的に学ぶのは初めてだったので、濃く深い知識をたくさん学ぶことができたように感じました。「戸の開け方」の実習では、引き戸だけなく押して入る「ドアの開閉」まで細かく学べ、とてもためになりました。普段から丁寧にしようと心がけていたのですが間違っているところがたくさんあったので、とても良かったです。

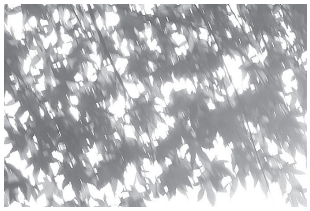
個人的には「物の受け渡し」が特に印象に残りました。物の受け渡しは、相手のへの尊敬の気持ちや思いやりの気持ちを表す動作だと思っています。特別なことではない普通の行為ですが、この作法は社会人になったときに重要になると思います。ペン、ハサミから傘までそれぞれの渡し方があり、それを学べたことがありたがたいです。

学んでいくごとに分かったことは、日本人の思いやりの心の深さです。どの授業にもないような細かなところまで相手を気づかう思いやる工夫が凝らされていたのは驚きでした。そういう部分が、日本人の国民性につながり、世界で評価されているのではないでしょうか。授業を通して本格的に礼法を学ぶことは人として大きな成長ににつながると思います。

今月の1枚

「TopEyeフォトコンテスト2022」入選作品

「幻想」3枚組作品



高梨　優汰（3-3出 三）